

令和4年度 地域と学校の連携・協働に係る研修会

趣 旨：地域と学校が連携・協働した活動の推進を図るため、地域学校協働活動を中心とした活動の在り方について研修する。

今年度は、先進的な取組を行っている学校・地域の事例発表、専門家による講演をとおして、連携の在り方や地域の力を活用した取組について学ぶ機会とした。

日 時：令和4年11月29日（火） 13：30～16：40

場 所：山梨県総合教育センター 大研修室 ⇒ Web開催（Zoom会議）に変更

参加者：学校教職員、行政職員、学校教育関係者（学校運営協議会委員、地域コーディネーター、学校支援ボランティア等）、保護者、地域住民 等 約150名

内 容：

1 事例発表

(1) 上野原市立島田小学校 教頭 土屋 百合香 先生、 コーディネーター 碓井 恒夫 氏



10年以上に渡り放課後子供教室の運営に関わってこられたコーディネーターにより、小学校へ地域人材が出前授業をしたり、子どもたちと一緒に清掃活動をしたりと、活動が拡充、地域とのつながりが広がっている。既存の団体や活動を組み合わせて新たな活動へ発展させる等、無理のない工夫もされ、緩やかなつながりが形成されてきている。

放課後子供教室の活動も、スポーツ、太鼓、書道、英会話、手話、空手…と幅広く、大学生から年配の方々まで、多様な人たちが子どもたちを認め、褒め、子どもたちの体と心を育てている。大人になって戻ってくる「ふるさと」づくりにもつながっている。

(2) NPO 法人河原部社 理事長 西田 遙 氏



韮崎市より人口対策事業「comeback 支援プロジェクト」を受託し、中高大学生に関わる様々な事業を展開している。その一つ、韮崎市内中学校の職場体験プロデュースでは、受け入れ企業の募集にはじまり、「韮崎しごと展」（合同企業説明会形式での事前学習、職業観をもつきっかけづくり）、体験先とのマッチング（適職診断、個別面談等）、事後学習まで、学校と連携して進めている。青少年（ユース）の可能性を最大限に開花させるPYDという理念のもと、ユースのスキル、能力、資質の形成を促し、健全な人間関係構築を助長し、取り巻く環境を整備し、社会的な仕組みを改善していくために、青少年育成プラザMiacis^{ミアキス}等の場を活用して、ユースに様々な活動機会を提供している。

2 講演：「子どもを育む『縁』を結ぶ」～地域と学校の連携・協働とコーディネーターの役割～

全国体験活動ボランティア活動総合推進センター コーディネーター 興柁 寛先生

子どもたちに実体験を伴う学びを提供するために、地域（学校外）の関わりは不可欠である。この実現に、人や団体とつながり、それをつなぐ縁結人であるコーディネーター等が求められる。「志は高く、（活動の）ハードルは低く」というボランティアの在り方や地域をつなぐコーディネーターの役割等について事例を交えながらお話いただいた。木更津市や横浜市の事例では、学校内にコーディネーターやボランティアが常駐するボランティアルームやCS本部を設置したり、小中学校と地域の行事等の情報を掲載したコミュニティ・カレンダーを活用したり、行政が体制づくりに関わり、企業やNPO等の団体が活動支援する事例を示していただいた。



参加者からの感想等

- * [島田小] こうした活動を成立させるには地域と学校の距離が近いことが必要だと感じました。日頃より、地域へ学校のことを発信したり、子どもたちが実際にでかけたりしながら、地域との距離を縮めていくことが大切だと思いました。
- * [島田小] コーディネーターが地域の様々な団体、サポーターと児童の活動を繋いでいる状況がよくわかった。地域の力が児童の成長に繋がっている様子が伝わってきた。学校だけではこのような児童への教育・支援はとてできない。まさに、地域が子どもたちの「生きる力」を育てており、子どもたちが地域の方々の「生きる力」を育てていることもわかった。
- * [島田小] 学校側だけでなく、地域の方々側からのアプローチがあり、「地域とともにある学校」のあるべき姿を見ることができました。
- * [河原部社] 若い方がこうした活動をしてくださることにより、児童生徒が身近に感じ、様々な取り組みに主体的に参加していくようになると感じました。地域の発展にとっても貢献できる取り組みであり、大変参考になる内容でした。
- * [河原部社] とても先進的で、このような NPO 法人がもっと増え、学校を支援してくれたらと羨ましく思った。学校、家庭以外に子どもの居場所がある。こんなところがあったら、故郷愛は生まれやすい。持続可能な社会の仕組みをしっかりとした理論のもとに作り上げている河原部社の方々の活動は、多くの地域で学ぶべき例である。
- * [河原部社] 社会参画意識を高めることは、とても大切なことだと思っています。5 C*を意識した教育活動について、教職員に還流報告したいと思いました。
※5 C = 能力 Competence、自信 Confidence、つながり Connection、人格 Character、思いやり Caring
⇒この5つがバランス良く向上すると、貢献 Contribution につながる
- * [講演] 木更津と横浜の実践例は、大変興味深いものであった。予算0という厳しい状況でも、このようなことができていくことは目から鱗であった。また、「やってあげる」や「教えてあげる」という考えではなく、「子どもに教えてもらう」だとか、「できていることを褒める」という関わり方で、ボランティアが成立するという観点は、とても大事なことだと改めて感じた。こうした関わりで、子どもたちの「自己効力感」は育つのだと納得できた。
- * [講演] 冒頭の子どもを育む「縁」を結ぶ、つながる、つなぐ、わかちあうの言葉がとても心に残り、縁結び人になれたらと思いました。サポーターの確保の難しさを感じているので、世田谷区のように中間支援機関に支えられていることは、とても羨ましく、信頼できるつなぎ役のプロ、システムの確立が必要であることを強く感じました。
- * [講演] 学校という単位だけではなく、地域や社会といった単位で子どもたちのことを考えることが本当に大切なのだと思いました。様々な教育課題を学校だけで考えるのではなく、様々な団体との連携の中で考えていく必要があることを学びました。
- * [講演] CS を行っているについて、地域と関わるのが目的のようになってしまっていた自分に気付かされた。CS を行う本来の目的や大切なことを改めて見つめなおし、自校の CS に生かしていきたいと思った。
- * [全体] 「地域の人がかどもをほめること」「子どもの目線から」「小さな成功体験の積み重ね」「コーディネーターの存在が大切」「少年は必要とされたときはじめて大人になる」など多くの強いメッセージをいただいた。
- * [全体] 学校にとっては、手の届かない実践も多かったので、教育委員会と学校、それぞれの取り組むべきことが整理できるとよいと思いました。